

11章 家族ストレス論的アプローチ

- 家族ストレス論: 災害研究、医学・精神医学の家族研究、家族危機に関する社会学研究から始まる
- R.Hill Families under Stress 1949
- ABC-X モデル: ストレス源 * 家族の危機対応資源 * 家族による出来事への意味づけ → 危機状況
- roller-coasterモデル: disorganization → recovery → reorganization 家族は危機に対応、調整・適応する
- MaCubbin,H.L.1983 二重ABC-X モデル: Hill モデルの統合 危機と適応をまとめた FAARモデル詳しすぎ?
- 家族ストレス論への批判 1)ストレスは個人でしか計測不能 2)トートロジー 全体としてのストレスの大きさ、家族資源のレパートリー・機能、適応能力等は、家族が維持・復元されたことをもって遡源的に推測されるのみ。

12章 相互作用論的アプローチ

- Symbolic interactionism Blummer, H.G.1969
- 1)人はシンボルを用い、解釈行為をする、2)社会的自我と主我との対話による自省、3)個人は社会に生まれる、4)人間の行為水準は、動物行動や生理的行動と異なる
- 家族社会学研究への応用
- 1)子供の発達論、家族危機への成員の対応
- 2)配偶者選択の過程 後知恵的？
- 3)家族内相互作用 小説の方が上？
- 相互作用論的アプローチの限界
- 1)認識よし、しかし、観察、測定方法の確立が？
- 2)家族の意味世界の機微、外部者に分かるか？
- 3)現象学的社会学もそうだが、家族を客体として扱う研究には向かない方法。主観的家族論への応用。

13章 交換論的アプローチ

- 交換論と家族研究:アメリカ社会学における合理的選択理論の隆盛(個人の選択の集合としての社会現象)
- 社会的交換論:G.C.Homans『社会行動』誠信書房。(個人は報酬を最大に、費用を最小にしようとする→個人が他者に依存するとき、権力が発生する)Peter Blau『交換と権力』新曜社。(交換の互恵性が統合を生み、互恵性の失敗が権力を生む)
- Nye,F Ivan, Family Relationship:Rewards and Cost 1982
クイズ:結婚の解消を報酬・費用で説明せよ
- 交換論の限界1)家族は合理的行為により生み出された?なぜ、子供を産む?2)個人の選択がどう集合化されて社会的規範になるのか?3)アメリカ社会の規範(合理的選択、自己責任)こそが、交換論の原理であるが、他社会には異なる伝統・規範が存在する→アメリカさえも適用可能か、不明な部分が多い。